

令和元（2019）年度 相愛中学校・高等学校「学校評価」

1. めざす学校像

相愛中学校・高等学校の教育の柱は、仏教とくに浄土真宗のみ教えに根ざした女子教育であり、130年をこえる歴史を経ても、建学の精神である『當相敬愛』を見失うことなく、自利利他と共生の思い、知性と教養、品格を備えた女性を育成し、社会に多くの有為な人材を輩出してきた。しかしながら、ますます激化する私学間競争に生き残り、本校が発展的に存続していくためには、他校にはない独自性を社会および本校のステークホルダーに対して魅力的に発信し、信頼を獲得していかなければならない。そのため、本校の教育ビジョンを明確にするための「将来構想」を策定すべく、2018年度当初、「相愛中学校・高等学校第1次将来構想～その方針と推進方法」を土台として、これからの社会に求められる人物像をいかに捉え、どのようにその育成を図るかという点に重点を置き、当面（約5年間）取り組むべき課題について、2019年に第1次将来構想を策定した。

2. 中期目標

今後の教育活動の方向性として、2015年に国連サミットにおいて採択、スタートした国連グローバル・コンパクト（UNGC）の取り組みにもとづいた「持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）」の推進を、建学の精神の具現化を図る中期的な達成目標と位置づけ、その達成に向けた探求学習、課外行事などの活動内容を具体化させていくものである。

また、第1次将来構想では、以下に挙げる教育面の主な改革テーマに関して、具体的なビジョンを30項目にわたって示している。

- ・教育の質(1) 建学の精神を具現化する教育活動の再構築
- ・教育の質(2) グローバル社会に貢献する女子のキャリアデザイン
- ・教育力 教育行政の変化をふまえた教育活動の高度化

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析 [2019 年12 月実施]	学校評価委員会からの意見 [2020 年 9 月 18 日実施]
○生徒 各質問項目に関する回答の状況は前年度と同じような傾向にある。各項目において、「大変満足している」を+3、「満足している」を+1、「あまり満足していない」を-1、「満足していない」を-3として算出した満足度スコアで見ると、全25項目の内、「進路・生き方について考える機会の提供」を除くすべての項目において前年度よりも評価が上がっている。前年度よりも0.3%以上評価の上がったものとしては、 「丁寧でわかりやすい授業（スコア：0.6→0.9）」 「学習意欲を高める学習指導（スコア：0.4→0.8）」 「授業の進み方（スコア：0.2→0.5）」 など、学習指導に関する項目が中心となっている。この項目は特に高3においてポイントが高いことを考慮すると、高大連携に関する諸問題に関して、必要な情報を随時生徒に対して進路指導として対応したり、SDGsに関するプログラム等、大学進学を越えたキャリア教育を始動させたりしたことが、改善の原因ではと考察することができる。また、建学の精神の具現化である 「宗教的行事（スコア1.5）」 および 「安全管理の充実（スコア1.4）」 「家庭で学校の話をする（スコア1.5）」 については、非常に高いスコアとなっている。 その一方で、 「授業の進み方（スコア：0.5）」 「問題対応（スコア：0.4）」 「教員相談（スコア：0.5）」 はスコアの改善がみられるものの、他項目のスコアと比較すると依然として低く、一層の改善が求められる。また、これらの項目が低い要因が何かを探る必要もある。 ○保護者 過去5年間、各項目に関する回答状況はほぼ同じであり、前年度と比較してもほぼ横ばいである。	・宗教行事は相愛の強みであり、情操教育に結びついていると感じている。 ・保護者の回答において、授業に係る項目の評価が低く、この原因を分析する必要がある。 ・保護者・在校生・教員の三者間比較では、教員と生徒・保護者との乖離が大きい。この意識の差を埋めていかなければならない。 ・「大学進学対応」に関して教員側としての評価が低いのはなぜか？自信をもって対応していただきたい。 →（学校としての回答） 大学入試改革の方向性が過渡期であるため教員自体も不安に感じていることが原因と考えられる。 ・「施設・設備」の項目で教員側の評価が低い。施設面に関しては今後改善してほしい。 →（学校としての回答） 教員は体育館の老朽化やICT教育について低い評価をしていると考えられる。老朽化した校舎については中長期計画にて検討中である。 ・「小テスト・朗読書等の学習指導効果」について、生徒は評価しているのに対し、教員側の評価が低いことについて、原因を探してほしい。 ・「問題対応」に関して生徒の評価が低い。先生方はきちんと対応していたが、問題対応が遅かったように思う。

「宗教的行事（スコア1.7）」 「礼儀・服装・協力姿勢育成指導（スコア1.2）」 「校則遵守（スコア1.1）」 「学校行事の充実（スコア1.2）」 「教職員の服装、行動、態度（スコア1.2）」 「安全管理の充実（スコア1.3）」 「病気予防・保健衛生の対策（スコア1.2）」について は評価が高い。一方で、 「丁寧で分かりやすい授業（スコア0.4）」 「学習意欲を高める学習指導（スコア0.3）」 「授業の進み方（スコア0.4）」 「宿題の量や内容（スコア0.4）」 の評価が低い。これらは教科指導の中核であり、保護者の 学校満足度を上げるためにも改善が必要である。 ○教員 各項目の評価は、過去3年間と同様の傾向にあるが、「礼 儀・服装・協力姿勢育成指導（スコア1.6→1.5）」を除 く全ての項目において、前年度よりも評価が改善した。 それぞれの評価スコア改善の具体的理由については今後 精査が必要である。 ○全体として 「保護者・在校生・教員」の三者比較ではそれぞれの評 価に乖離がみられる項目が多く、その原因が何であるか を探り、教育の内部質保証を確保するとともに、生徒保 護者の学校満足度を向上させていく必要がある。	・「入学奨励度」について、中1が最も低くなってい る。長い目で見ると入学させて良かったと思うが、 早い時点で「入学して良かった」と言える学校にし てほしい。 ・前年度の評価委員会で言及された問題点が改善されて いるように感じないので、今後、改善に向けた検討を お願いしたい。 ・アンケートの分析によって認知できた傾向を基に具体 的なアクションプランを策定し実施・検証を行って欲 しい
---	---

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 将来構想の推進	2019年5月策定の「第1次鍾愛構想」に基づき、6月より、全ての改革項目における「行動計画」に関して「実施すべき活動にかかる計画書」の作成 将来構想委員会にて行動計画に関する継続的なヒアリングを行い、目的や活動の明確化。	推進できたか否か。	目的や活動の明確化については将来構想委員会において推進を継続できている。 今後の課題としては、「実施すべき活動にかかる計画書」の活動内容の進捗状況や、成果などを全学的に検証するための「自己点検・評価委員会」の設置など、「検討（P）、実施（D）、評価（C）、改善（A）」のPDCAサイクルによる、各行動計画の円滑かつ効果的な推進を図ること で、本校の教育水準の着実な底上げを実現させていくことをめざす
2. SDGsに向けた取り組み	SDGsに向けた探究学習や課外活動、国際交流を通じた質の高い教育の推進	推進できたか否か。	2019（平成31）年1月にグローバルコンパクト・ネットワーク・ジャパンに加盟し、SDGsの目標の一つである「質の高い教育」の一環として、平和教育の推進を軸に、探究学習を全学的に行った。 課外活動や国際交流としては、大阪国際平和センター（ピースおおさか）の戦争犠牲者追悼式における平和コンサートに出演協力や、同コンサートで共演した地域合唱団とのつながりから、チェコを代表する少年合唱団“ボニ・プエリ”との交流演奏会を本校にて開催するに至った。

3. 建学の精神の具現化に関する事項	法要や宗教教育研修会の実施を始めとする宗教教育の充実。 SDGsに向けた宗教教育の観点からのアプローチ。	充実できたかどうか	2019（令和元）年度においても、保護者および教職員を対象とした法要や宗教教育研修会を年間行事に組入れるなど、本校の宗教教育にふれる機会の拡充を図った。 法要後に全生徒に法話感想文を提出させ、それらを取りまとめた冊子『響流十方』（第6号）を発行。 これを含む宗教教育活動は、千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要にかかわる募集作文選考において、2年連続最優秀作品に選出、全国児童生徒作品展においては、入選1名、佳作11名が選出されるなど、情操教育としての一定の成果と評価を得ることができた。 また、SDGsに係る教育活動の一環として、高校2年生2名が、まごころある国際人の育成～仏教×SDGs～（龍谷総合学園の学習プログラム）に相愛高校代表として参加したほか、別の1名は龍谷大学ビジネスプランコンテスト「プレゼン龍」×SDGs 龍谷総合学園の部において最優秀賞を受賞した。
---------------------------	--	------------------	---

4. 教育活動の展開と 充実に関する事項	(1) 教育活動の高度化 ① 中学校 ② 高等学校 a) カリキュラムの改定 学習指導要領が改訂されたことに伴い、2019（令和元）年度以降の入学生を対象としたカリキュラムの改定について検討を重ね、2020年度から以下の内容を考慮した新たなカリキュラムへと移行できるよう学則を改正する。	教育内容の高度化が実現できたか 改定が出来たか	全学年・コースにおいて、技術家庭の技術分野として「情報・プログラミング教育」授業の実施。 1年生の数学科に関して、生徒の個々の学習状況に対応し、よりきめ細やかな指導ができるように、10月より習熟度別授業を実施。 また英語科においても、学力差が拡大する2年次より習熟度授業を実施し、今後は年次進行で数学科・英語科の習熟度別授業を実施することとした。 以下のカリキュラムの改訂に伴う学則を変更した ・普通科2年に『政治経済』、音楽科2年に『現代社会』を開講。 ・普通科専攻選択コースにおいて、建学の精神「當相敬愛」に基づく「共生」と「自利利他」の意識を涵養する教育の一つとして、2021（令和3）年度以降の普通科3年に『倫理』を開講。 ・普通科専攻選択コース3年に開講していた選択科目『理科基礎演習』を発展、充実させ、看護・栄養系統を志望する生徒の学力向上を図るべく、2年に『理科基礎演習Ⅰ』、さらに、3年に『理科基礎演習Ⅱ』を開講。
---------------------------------	---	---------------------------------------	---

4. 教育活動の展開と充実に関する事項（続き）	b) オンライン英会話の拡充 英語4技能の習得・向上のため、普通科特進コースで既に実施しているオンライン英会話の拡充を検討する。 c) 特別活動等の活用 校外学習、修学旅行、ホームルームなどの特別活動、さらにはポートフォリオの作成や進路指導の場を活用するなどして、生徒の主体的・論理的思考力につながる問いかけ、意見交換を活発化させる	検討及び拡充ができたか 生徒の学習への主体的な取り組み、論理的思考能力の涵養、協働する姿勢を養うことができたか。	2020（令和2）年度より音楽科へ拡大実施することとした。 さらに、2021（令和3）年度以降は普通科専攻選択コースにも導入し、全学的な取り組みとしていくことをめざす。 生徒の中において、テストの点数や偏差値のみで自己を評価されるものではないという意識の変化がみられた。
	（2）特色ある探究学習の展開 SDGs およびESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の推進をコンセプトとし、特色ある探究学習を展開する。	各学年において特色ある探究学習が展開できたか	各学年において以下のテーマに探究学習を推進することができた。 中1：地元・大阪について 中2：戦争と平和について 中3と高1：「ソーシャルチェンジ」と題して、社会と自分のつながりと課題を主体的に探求。 高2：西本願寺の姉妹校46校と協力した学習プログラム「仏教とSDGs」 高3：地域や世界とつながる貢献活動

4. 教育活動の展開と充実に関する事項（続き）	（3）教育施設の整備・充実 生徒による情報収集や情報分析、また教師によるデジタル教材の提示等において、I C T機器を利用する機会の増加 2020（令和2）年度における普通教室への無線LANやタブレット端末などの環境整備の方向性を取りまとめ、その整備に向けて、文科省が進めるI C T教育の支援事業（G I G Aスクール構想）などの外部補助金制度の申請に向けて、具体的検討を進める。	I C T機器の活用機会が増えたか I C T環境整備に関する具体的な事業を企画立案できたか。	探究学習等においてタブレット端末を利用してプレゼンテーション資料を作成させるなど、利用機会を増やすことができた。 GIGAスクール構想に基づき、普通教室に置ける無線Wi-Fiの整備や、中学校における一人一台iPad整備事業を立案することができた。
--------------------------------	---	---	---

5. 進路指導に関する事項	(1) 各コースにおける進路指導の展開 ①高校普通科特進コース 生徒個々の学習状況やレベルに応じた指導を徹底し、国公立大学や難関私立大学の合格率向上につなげる ②高校普通科専攻選択コース 生徒が希望する幅広い進路に応じて選択科目を履修できるカリキュラムで、大学合格率の向上をめざす。	大学合格率の向上 大学合格率の向上	特進コース担当教員による会議を定期的に行い、模試の成績分析や大学入試の動向等を共有するとともに、授業だけでなく、放課後などを利用した個別指導も積極的に行った。その結果として、同コース在籍数12名に対して、国公立大学進学者2名、関関同立・産近甲龍・三女子大等の難関私立大学合格者12名と一定の成果を出すことができた。 国公立大学進学者を1名出すことができた。また同コース内に設置する7つの専攻のうち、特に「看護受験専攻」でも、一般入試制度を利用して全員が進学先を確保することができたことは、学習指導および進路指導に一定の意味があったものとする。
----------------------	--	---------------------------------	---

5. 進路指導に関する事項（続き）	（2）進路ガイダンスの充実 高大連携プログラムによる教育活動としての進路ガイダンスの実施と充実 （3）相愛大学への進学率の向上 普通科専攻選択コースから相愛大学への進学率改善 本校から相愛大学への入学者に対する奨学制度について、高校3年保護者・生徒対象の各進路説明会に加え、高校2年保護者・生徒対象の説明会でも説明。 相愛大学と本校との入試及び進路に関する連絡協議の場を年3回設ける。	進路ガイダンスの実施充実ができたか 相愛大学への進学率の改善（高3在籍数の25%を目標）	高校1年で2回（大学生活及び職業について）、同2年で2回（大学研究及び学部・学科の特色について）、同3年で1回（面接・マナー指導について）、大学と個々の生徒が真につながることを意識したガイダンスを実施した。 試験的に、ガイダンスの事前・事後活動をも取り入れたポートフォリオ作成を行い、生徒自身が将来の可能性を考え、自分に合った進路へと進めるよう意義のあるガイダンスをめざし実施した。 高校3年生全体の23%を占める27名の生徒が相愛大学へと進学し、進路指導部目標の25%に迫る数字となった。 【内訳】 音楽科：65%（過去4年の平均59%） 普通科専攻選択コース：15%（過去4年の平均8%） とそれぞれ増加。
--------------------------	--	--	--

6. 生徒指導に関する事項	(1) 生徒対象 安全かつ健康な生活を目的としたサポート・指導のための講演会の実施 ① ネットリテラシー ② 思春期教育 ③ 歯科等健康に関する教育 ④ 交通安全に関する教育 ⑤クラブ活動における安全な運営 ・夏期のクラブ活動における熱中症対策 ⑥ボランティア精神の涵養	具体的な講演会等が実施できたか 効果がえられたか 具体的な対応ができたか 具体的な活動ができたか	以下の講演会を実施 ① 「ネットリテラシー講演」 ② 「思春期教育」 ③ 「歯科等健康に関する教育」 歯に対する本校生徒の未処置の割合が減少傾向にあり、活動に一定の効果がみられた。 ④ 「交通安全に関する教育」 体育館の見回り強化、空調設備の機能調査、暑さ指数計（WBGT指数計）などの導入を実施。 スポーツ庁が推進する運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を踏まえ、効率的かつ充実した活動方法について検討を進めた。 学校周辺道路の清掃を行う「まち美化」ボランティア活動に積極的に取り組み、「共生」と「自利利他」の実践を通して健全な学校生活の実現に努めた。
----------------------	--	--	--

7. 入試広報・生徒募集に関する事項	(1) 広報活動の高度化 オープンスクール、学校訪問、ブース説明会等の生徒募集イベントの見直しと強化	イベント参加者数の増加ができたか 志願者数が増加したか	【オープンスクール】 小学生の参加者数が前年度比で177%、中学生の参加者も前年度比で175%増。 【その他のイベント】 中学入試イベントでは前年の142%、高校入試イベントでは前年度の199%、外部の相談会等でも軒並み前年度を上回る数値を残すことができた。 中学校では入学者は前年度38名に対して39名とほぼ横ばいであり、高等学校においては専願入学者が77名で前年度比164%(前年度44人)となったものの、内部進学生が減少したことや併願受験生の戻りが減少するなど、全体としては前年度より10名多い112名に留まった。 今後の課題としては、年間を通して実施される各種生徒募集イベントの参加者からの出願率を一層向上させるための施策を企画、検討する必要がある。
---------------------------	--	--	---